



燕市立燕東小学校 学校だより

令和6年11月18日

No. 8

↓学校ホームページ

# あすなる



## 「ゆるす」ということ

校長 鈴木 華奈子

道徳の授業に参加しました。

「トラブルが起こったとき、『ゆるせない!』と思ったことはある?それは、どんなことがあったときだった?」

友達、兄弟姉妹、おうちの人、通りすがりの人などとのことを振り返り、自分が大事にしていたものを壊された、大切な人の悪口を言われた、嘘をつかれた、約束を破られた、叱られたなど、いろんな思い出を子どもたちは話します。どの思い出にも共通しているのは、そのときの「なんで?」という疑問と怒り、そして、その後ろにある悲しみと苦しみです。

道徳の教材では、ある仲間に対し「ゆるせない!」と思う主人公がでてきます。主人公は大切な最後の試合に負けてしまいます。負けた原因となったその仲間の振る舞いに腹を立て厳しく非難します。しかしこの後、主人公は「ゆるせない!」から「ゆるす」に変わっていきます。

この主人公について考えた後、次のように問いました。

「みんなはゆるしたこと、ゆるされたことある? 『ゆるす』ってどういうこと?」

子どもたちどうして話し合うと、次のような答えが出てきました。

- 「あやまる」「弁償する」など、自身の行動を反省していることが伝わってきた時や失ったものの代替を得られた時に生じること。
- 「人の気持ちを知ろうとする」「相手の立場に立ってどんなことを思っているか理解する」など、どうしてこんなことを?と、行為の後ろにあるその人の思いを考え、自分と重ねることでその思いに納得すること。
- 「全てのことを水に流す」など、悲しみや怒りなどの負の感情をそのまま受け入れると自分で決めること。

これが「ゆるす」ということ。

子どもたちの考えた「ゆるす」の深さに感動しました。

これらは子どもたちそれぞれが人と関わる中で出会った困難を乗り越えてきた経験から導かれたもの。人との関わりの中で、たくさんの喜怒哀楽を積み重ねてきた子どもたち。困難に出会い、それを乗り越えていく過程は、子どもたちの中で太い幹となり、より優しくたくましい未来につながるのだと改めて実感しました。私たち大人は、子どもたちの未来につながるさまざまな過程を大切に、そばでゆったりと見守り支える者であり続けたいと思います。





## 心と音とを一つにつなげられたから



音楽主任

「音楽ってなんて素敵なんだ」と実感した音楽会でした。

元気な暗唱、明るい歌声、美しいハーモニー、子どもたちの真剣なまなざし、気持ちを合わせて演奏する姿など見ていただけたでしょうか。どの学年も工夫を凝らし、見応え聴き応えのある発表になっていたと思います。みんなで楽しんで一生懸命に音楽を披露しようとする姿が見えたからこそ、感動のステージが生まれたのでしょう。

音楽会後の教室では、達成感で満足気な子どもたちの表情がたくさんありました。それは、音楽が苦手な子も得意な子もお互いに認め合い支え合って、それぞれの心と音とを一つにつなげられたからです。保護者の皆様、子どもたちへの大きな拍手と温かい励ましをありがとうございました。



## 教室が美術館に… 校内絵画展



図工主任

赤門祭・絵画展に向けて、子どもたちはみんな、想いを込め時間を掛け、一生懸命に作品をつくりあげました。それぞれの学年ごとの題材やテーマに沿って、色合いや構図を工夫し、心を込めて丁寧に仕上げました。1つとして同じ作品はなく、一人一人の思いが表現された素敵な作品ばかりでした。その作品に込められている一人一人の世界を観ることにより、子どもたちの感性の素晴らしさを感じました。

絵の鑑賞は、あすなろなかよし班のペア学年で一緒に回りました。いつもの教室が美術館へと変身です。下級生の絵を見て「絵を見ていると楽しい気持ちが伝わってくるなあ。」「色が明るくて元気が出る。」とか、上級生の絵を見て「こんなに細かく描けるなんてすごい！本物みたい！」「こんな絵を描けるようになりたい。」などと口々につぶやき、良さを味わいながら鑑賞する姿がありました。

今年度も、多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。

